主な記事
２面　司教館の窓から
　　ひと、高松教区の兄弟姉妹たち
３面　青少年委員会から今後のビジョン
　　若い力
４面　神学生だより
　　高松教区人事
　　教区・司教スケジュール

カトリック高松教区報

2009年5月3日（第129号）
発行所　カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

青少年活動を活性化し、新しい召命生み出そう

神学院閉鎖後のあるべき姿を提起

教区の一致と再生へ向けて

溝部司教《四旬節教書》発表

溝部脩司教は三月七日付で「二〇〇八年度高松司教教書―教区の一致と再生へ向けて」を発表され、神学院閉鎖後の教区のあるべき姿について提起された。その全文を紹介する。

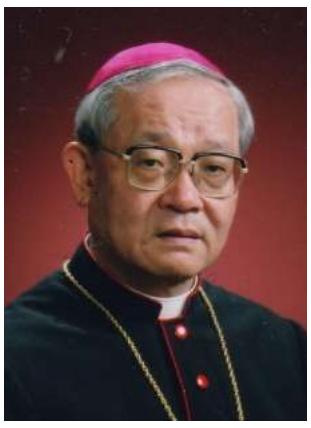
高松教区に働く司祭・修道者・信徒の皆様

二〇〇九年の四旬節の教書は高松教区立国際神学院閉鎖の通知と、これからの高松教区のあるべき姿を提起するものです。

これまでの経過

二〇〇九年三月三十一日付で高松教区立国際宣教神学院は閉鎖されます。すでに宗教法人「カトリック高松司教区」の責任役員会は、二〇〇七年十月二日付で同神学院の廃校を決議しました。この決定は、司教顧問会の賛同をへて、司祭評議会（二〇〇八年五月二十七日）、宣教司牧評議会（二〇〇八年五月二十七日）で取り扱われ、いずれも承認されました。この決定に先立って数度の交渉が福音宣教省、国務省、ひいては教皇ベネディクト十六世と行われ、いずれからも神学院廃校の承認を得ました。

宗教法人法は、責任役員会が法人の主要な境内建物の用途若しくは境内地の用途変更を決議したときは、その事実を公表することを義務づけています。これを公告といいます。二〇〇八年五月二十九日、責任役員会は、高松教区立国際宣教神学院の廃校通知を高松教区民と日本教会に公表するために、「高松教区に働く司祭、修道者、信徒」に宛てた司教書簡が、各小教区、修道院に送付されました。しかし、その翌日、三十日、バチカン市国国務省長官ベルトーネ枢機卿より、神学院廃校の発表を待つようにとの指示が入りました。そこで私は前述の書簡を回収し焼却することを命じました。（二〇〇八年五月三十一日）



しばらくして国務長官ベルトーネ枢機卿の書簡が届きました。この書簡は「高松のレデンプトーリス・マーテル神学院」は廃止され、ローマの「レデンプトーリス・マーテル神学院」に併設されること、また福音宣教省長官の代理人が「道」の司祭の去就について協議するために来日することを伝えてきました（二〇〇八年六月二十七日　Ｐｒｏｔ・Ｎｏ８５・２２７）。しかし期待された代理人の来日はなく半年の月日が流れました。

その間に宗教法人「カトリック高松司教区」は、幾つかの事由で法人の「規則」を変更する必要が生じました。文部科学省の外局である文化庁文化部宗務課と「規則変更」の手続きを進めるなかで、国際宣教神学院の問題は避けて通れないことが明らかになりました。前述のベルトーネ国務長官の書簡で明らかなように、高松教区立国際宣教神学院は教会法上なくなりました。そして実際に二〇〇八年の年末までに神学院の指導者と神学生は全員ローマに移動し、高松教区立国際宣教神学院は教会法上も事実上も廃校になりました。宗務課は、法人である「高松司教区」は、事実上存在しない神学院についてその廃校を公告しなければならないという見解を示しました。ただ廃校になったことで土地・建物の用途変更が成立しているので、今後の扱いについて後日責任役員会で検討すればよい。これは法人内部のことであるから宗務課は関与しないという見解も示されました。神学院に対する宗教法人法上の扱いを、教会法上の実態に合った適正なものにしなさいという指示でした。

そこで司教区は、二〇〇九年一月十五日、あらためて責任役員会を招集し神学院の廃校を決議し、公告の文案を検討しました。廃校後の建物・土地の用途について提案がありましたが、これにはバチカン市国国務長官の意向もあり難しい問題でした。その間、ローマ福音宣教省と数度折衝を持ちました。最終的に宗務課の見解に従って、神学生養成を目的とした神学院を廃校にすること。その土地・建物は神学生養成のための目的には使わないことを明記して「国際宣教神学院の廃校と土地建物の用途変更の公告」としました。

なお、東かがわ市水主の土地建物が宗教法人「カトリック高松司教区」の基本財産であることにいささかも変更はありません。

この経過をたどる中で

神学院が閉鎖されたのは、設立当時、法を遵守しなかったことにあると言う人がいます。それもありますが、これが決定的な理由ではありません。法律上のことでしたら、その後、不備を是正していく道を探ることができます。それができなかったのは是正を許さない程の深い亀裂が司教区の中にあり、それは妥協を許さない程大きなものだったということです。全てに法を全面に出して体制を守ることに終始している時には教会の刷新はありません。次のような分析をする私を許してください。

二十数年前、ナイスが終わり、一時燃え上がったのですが、それ以降冷めて高松教区の中で福音宣教に関してなかば諦めムードがあったのではないでしょうか。この数十年間、他の教区は種々の試みをしていましたが、高松教区は従来の教会のやり方を引きずって新しい進展を見せなかったというきらいがあったのではないでしょうか。また新しい司祭召命もなく、将来に余り希望が持てない状況にありました。そのようなときに新しい教会の運動である新求道共同体「道」が入り、多くの人々を魅了しました。残念なことは教区がこの運動をよく知らなかったこと、またこの運動も教区の状況をよく見て活動を展開することがなかったことです。そして、教区民のコンセンサスを得られないまま、見切り発車のような形で活動は多様化し、国際宣教神学院設立まで至ったのでした。どうして善をしているのに何故反対するのかという反論を何度か、私は受けたことがあります。善は全ての状況、全ての時に適応するものではないのです。善にも「出来る時」と「出来る事」があるということです。善であっても「ある事」は「ある時」にしてはいけないのです。「出来る時」と「出来る事」、これを認識する賢明さが大切です。そしてこの「出来る時」と「出来る事」を識別する役割が司教だということです。内部で分裂が起り、収拾が取れなくなったときには司教の判断に任せる以外に他の方法はないのです。そのために司教はローマ教皇から教区に派遣されているのです。いまこそ司教を中心とした教区のあり方を考えていくべき時が来ているのです。教会は司教が識別できるため何が必要かを、その長い歴史によって知っており、それを教会法に定めています。司教は教会法、そして国内法によって教区を統括するのです。

いまからの教区の在り方を探りましょう

高松教区はそのはじめから修道会が強い教区でした。今もそう言えます。それだけに司教を中心とする教区のあり方に気づかなかったというきらいがあります。これを考える時、修道会は教区の中で司教と共に、どのように歩んで行くかを、まず真剣に考えるときが来ています。宣教会は教区の司祭であり、司教の下に徹底して働くという使命を持っています。ましてや教区司祭であれば、何よりも司教の基本方針に忠実であることが義務としてあります。司祭団が司教と固い絆で結ばれない限り、教区の一致と再生は決して望めません。高松教区では、司教を中心として教区をつくるということが実感されないできたという経緯があります。それだけに司教の意向に従って異動したり、教区での役割を自ら引き受けたりすることが大切になってまいります。

高松教区は協力宣教司牧態勢を推進しています

司教といえども単独で全てを決定するのではありません。司教顧問会、司祭評議会、宣教司牧評議会の助けを借りて教区の大きな路線をつくっていくのです。司祭評議会は、教区の司祭達から選出される司祭と役職の司祭、司教から推薦される司祭とから成り立っています。同様に教区の宣教司牧評議会には地区の宣教司牧評議会が代表を送っています。地区の宣教司牧評議会は各小教区の宣教司牧評議会が送る代表から成り立っています。即ち、教区の協力宣教司牧とは、下からの意見を徴収し、吸い上げた上で教区の方針を決定し、更に決定したこと、その意思を下部組織にまで浸透させるという考え方です。協力宣教司牧は単に司祭が不足しているので当番で主日のミサを司祭がかけ持ちするという考え方とは全く異なります。教区民が一丸となって小教区のこと、地区のこと、司教区のことを考える態勢のことです。私たちは一つの小教区に一人の司祭がいて、彼が宣教司牧、管理の仕事をすべて行うのに馴れてきています。いま教区民は司祭達に協力して地域の宣教司牧を考えようとしています。司祭達は地域にある修道者、信徒の知恵と力を借りて、地域社会に教会ができることは何かを考えようとしているのです。司祭がいなくなっているから、この態勢をとっているのだと反論する人がいます。それは誤解です。第二バチカン公会議は、教会―神の民ということを強調しています。神の民とは司教、司祭、修道者、信徒が一緒になってつくり上げる共同体なのです。仮に司祭が多くいても、他の司祭や信徒とともに教会共同体をつくっていくのです。ある人々はこのシステムは個人が持っているカリズマ、または特能を奪ってしまうと言っています。教会は神から与えられたカリズマ（特能）を決して押しつぶすことはありません。ただ、先にも述べたように「出来る時」と「出切る事」をよく弁えることが大切です。そして、これに関しては司教の指導に従わなければなりません。真のカリズマは共同体を作り上げるものです。自分達がやりたいことをやるのではなく、地方教会に自分達が出来ることが何であるかを、まず探ることから始めるのです。

高松教区の最優先課題

種々の活動が現代の教会にとって大切ですが、高松教区にとって最大の優先課題は青少年宣教司牧の活性化です。この四年間オブレート会ブラザー八木の指導力のもとで青少年宣教司牧委員会は模範的な活動を行ってきました。ただ司祭・信徒の皆さんの多くが、この委員会の企画に無関心、または無知であったことを残念に思います。ベルトーネ枢機卿は、今回の神学院廃校の決定に当って、教区内の青少年活動を活性化し、召命活動を促進することを神学院廃校の条件としています。これは国務長官の単なる勧告ではなく至上命令と考えてください。青少年活動が活性化されない限り、どうして新しい召命が生れてくるのでしょう。青少年とはあなたの遠くにいる人ではなくて、すぐ身近にいる人のことです。青少年委員会が種々の企画をしている時に一言「行ってみないか」と声をかけるだけで十分なのです。私達は青少年宣教司牧委員会に多大の予算を投じ、最優先課題として活動してきました。そしてこれからもここには手抜きをするつもりは毛頭ありません。

最後に協力宣教司牧態勢とは、自分たちが教会をつくりあげる意思を表しています。いままでスペインとかアメリカから宣教師を貰い、聖堂を建てて貰い、それが当然と考えてきました。いつの間にか貰い根性が身に付いたのです。そろそろここから卒業しなければなりません。神学院が去って行ったいま、一番考えて欲しいことは、小さな教会、小さな教区であってもいいから、それを自分たちの手で作っていくということです。この「自分たち」というのは教区に生きる信徒の皆様一人一人のことです。

もう二言大事なことを確認させてください。昨年、聖週間の典礼は司教、または司教によって任命された司祭が一度行った後にそれを繰り返さないとの指示を出しました。今年も昨年同様、聖週間の典礼を繰り返して行わないことを周知徹底してください。

二〇〇九年三月七日

高松教区司教　溝部　脩

無関心、無知であってはならない

司教中心に協力宣教司牧を推進

『宣教大会』開催めざす

教区拡大宣教司牧評議会　司教教書うけ討議

二〇〇九年春の高松教区拡大宣教司牧評議会三月七～八日、高知・江ノ口教会信徒会館で開催された。溝部司教は二〇〇九年四旬節教書で、教区立国際宣教神学院の閉鎖を通知し、これからの高松教区のあるべき姿を提起した。評議会はこの四旬節教書の読み合わせから始め、司教が提起した教区のあるべき姿をどのように具体化、実現していくか、二日間にわたり真剣に話し合った。

この結果、今年十月の「教区民の集い」のテーマを「宣教大会」とすることを確認。また三年後に向けて「高松教区宣教大会」を開催するため準備を進めていくことなどが確認された。

折りしも、松山教会と小豆島教会から、パウロ年に当たり、「宣教大会」開催が提案されていたが、半年間の準備で、やっつけ仕事ではなく、本腰を入れて取り組むべきという意見が大半を占めた。「神学院が去って行ったいま」、教書で司教が提案している「一番考えて欲しいこと、それは小さな教会、小さな教区であってもいいから、それを自分たちの手で作っていくということ」を「高松教区宣教大会」に向けて実践していこうというのである。

今年の「教区民の集い」は、三年後の「高松教区宣教大会」開催に向け、準備の第一段階として、「現状をよく認識する」ことに充てる。教書は、「高松教区の中で福音宣教に関してなかば諦めムードがあったのではないか」と分析する。新しい司祭召命もなく、将来に余り希望が持てない状況の中で、新求道共同体「道」が入り、教区民のコンセンサスを得られないまま国際宣教神学院設立まで至った、という。また神学院閉鎖の理由を、妥協を許さないほどの深い亀裂が教区内にあったからだと説明する。また高松教区を修道会の強い教区との指摘もある。このような状況の中で、協力宣教司牧態勢を推進し、青少年宣教司牧を教区の最優先課題として提示している。

拡大宣教司牧評議会は、宣教大会への第一段階として「現状をよく認識する」ために司教教書を、各小教区、修道院でよく分かち合うことを決議した。

高松教区の兄弟姉妹たち ③

聖心の布教姉妹会

聖心布教姉妹会の発祥

本会は１９２０年（大正９年）秋田市において当時の新潟教区長神言会司祭ヨセフ・ライネルス師によって創立されました。

高知支部修道院

その精神は

私達は十字架上のキリストの聖心を仰ぎ
〇その愛の宣布のため
〇謙遜による従順によって
〇各自のカリスマを活かしながらキリストの姉妹として生きます

修道会本部は神奈川県藤沢市に位置し、会員は現在２００余人です。北は北海道から南は徳之島、沖永良部島まで、二十数か所の修道院へ派遣されています。

四国では

高知修道院は９名の姉妹が奉献生活を共にしつつ、同じ敷地内に設置されている四つの事業所で相互間の交わりを通して子供たちのみならず、地域の福祉のために貢献し、「キリストの聖心のお望みの実現のため」に、使徒活動を捧げております。

高知聖園天使園（児童養護施設）

社会福祉法人みその福祉会

聖園マリア保育園

聖園ベビーホーム

学校法人聖心の布教姉妹会

聖園幼稚園

司教館の窓から

司教の独り言

長崎に赴任して初めて家庭で一緒に祈る姿を目にした。信者の家庭で育っていない私にはひどく新鮮に見えた。これこそ長崎とつくづく思わされた。長崎の信者さんの家庭を訪問するようになって分かった事は、家のどこかにマリア像とか、十字架が置かれていて、そこにロザリオとか祈祷本があるということであった。長崎以外で「毎日祈りなさい」と口酸っぱく勧めても、その実どうにもならないのだろうなという諦めがある。仕事の忙しさとか、ばらばらの時間割とか、挙げればきりがない位毎日祈れない理由がある。多分家に祈る雰囲気を作り出す場がないからではなかろうか。祈る場をどのように作るか、この際考えてみるのも一考に値する。家庭の中心にテレビではなく家庭祭壇でも置いたらどうだろうか。あるいはそれに似た場所をまず考えてみたらどうか。いろんな家庭に泊まることがあるが、仏壇を備えている家庭が実に多いことに気づく。毎日その前で手を合わせる習慣を作るためにも、どこかに祈る場を作る工夫をしてみないかと勧めたい。

溝部　脩

ひと　高知　赤岡教会

本田モナリッサさん

小さな町の教会、ここに一人の若いフィリッピン女性がいます。名前は本田モナリッサ。教会での様々な活動に積極的に、かつパワフルに参加しています。中でも日曜日の御ミサでは、第一朗読を担当。このため朝早くから「胸がドキドキするの」と言いながら練習している姿を見かけます。

モナリッサは１９９５年に日本に来ました。不安と希望の日々。彼女にとって、想像を絶する世界だったそうです。でも、それを支え、乗り越えられたのは、信仰とこのときに出会ったご主人、本田寿夫さんの大きな愛の力だったのです。二人は結婚し、彼は受洗しました。二人は現在、私たちの教会にとってなくてはならない大きな力です。家庭は日本的で、味噌汁をはじめ数々の日本料理、味付けなどを研究し、それらをマスター。周りの人たちに合格点をもらえるほどになりました。フィリッピンのビーフンやもち米で作る甘い赤飯など、絶品です。彼女は文化の違いの中で戸惑いながら、でも屈託のない笑顔で、いつも「おはようございます。」と。私たちの教会のモナリッサです。赤岡教会には、彼女をはじめ多くのフィリッピン女性がいます。彼女たちの輪が広がり、その想いが日本で花開き、フィリッピンに届きますよう、そう祈っています。

惟康さちほ（赤岡教会）

脱藩と船中八策

江ノ口教会　宮本匡士

ミカン　さわやか
オリーブ　やさしさ
うずしお　ちから
かつお　こんじょう

三月の拡大宣教司牧評議会で教区の重大事「召命」「協力宣教司牧」を協議した。その後に思った事を書きます。

私の召命にとって大きな影響があったのはミサ答え（侍者のグループ）。その名は本当に中世的であったが『祭壇の騎士』であった。スポーツするため友達も加入してもらい、隣の教会と試合をした。オブレート会が関わっている教会のことも知ったし、ラテン語や祭具等にも関心を持った。

今、青少年のグループ活動が協力宣教司牧地区毎に出来つつあるらしい。皆でバックアップをしよう。またグループに固有名詞がつけられればなお良いが・・・。

高知地区宣教司牧は教会の目標の一つに「社会とともに歩み、奉仕する教会」を掲げている。具体的に取り組めていないので、今年は「高知ボランティア・ビューロー」を再興し、社会と関わっていくのが近道なのではと思われる。諸活動団体は職業やカリスマを生かして地域と歩んでいるが、評議会の報告では小規模化しているようだ。今こそ医療と福祉のネットワークを進めること、また高齢者が今までの仕事や地域活動を生かした新しい活動団体を結成してはどうだろうか。

高知地区の代表者は郷里の先輩坂本竜馬に倣い、脱藩（脱旧小教区制）船中八策（自分たちが地方教会を作り上げる策）を推進します。竜馬と違うのは彼の像が桂浜から太平洋を眺めているのに対し、我々は石鎚、飯野、剣を眺めています。

はばたき

近年、学生と接していて気づくのは、メンタルヘルス（心の健康）に問題を抱えている人が増えているということだ。そうした学生への対応方法につき、教職員への研修も開かれている。少なからぬ学生は、自分に対するよいイメージを持てず、自己受容ということがなかなかできないようだ。

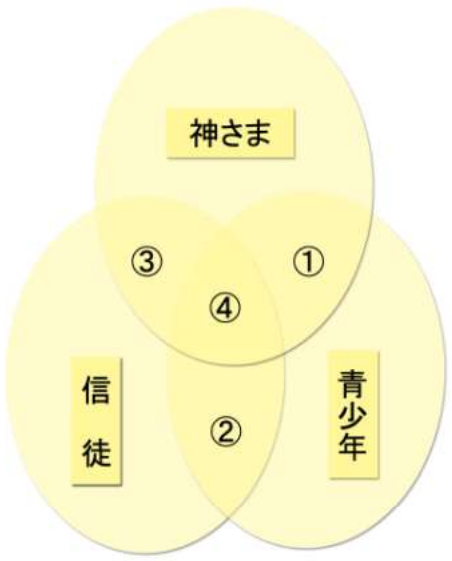
もちろん、周知のように、大学等の学びの場だけでなく、様々な職場においても心の不調を抱えている人が多くなっている。新聞の書籍広告欄をみても、「うつ」に関する本の宣伝がよく目につく。交通事故死者数は、ここ八年連続で減少し〇八年には、全国で五一五五人となったが、年間自殺者数はここ十年ほど三万人を越え続けている。

このような「生きるのが難しい」日本の社会にあって、私は、まず「自分が神に無条件で愛され受け容れられている」ということを味わいたいと思う。自分の罪深さや「どうしようもなさ」を遥かに凌駕する神の愛を感じたとき、私は心底ほっとすることができる。キリストの死と復活に与って、大きな愛を感じながら生きてゆこう。そして、一歩一歩、他者をありのままに受け容れることができるようになってゆきたい。ご復活「ありがとうございます」！

青少年委員会から 今後のビジョン

私たち青少年委員会は、今後のビジョンについて考えていく中で、活動の対象となる三大要素を挙げました。すなわち「神さま」に対して、「青少年（未洗者も）」に対して、そして「信徒」に対してです。①「神さま」と「青年」、②「青年」と「信徒」、そして③「神さま」と「信徒」には二つの要素が重なり合う部分にそれぞれのビジョンを立て、そして三つ全てが交わる部分を④新しい企画としました。信徒の皆さんには特に②・③について、ご協力の程をお願いしたいと思っています。（Br. 八木信彦）

信徒の皆様へ お願い



①信仰を育むプログラム

- 黙想会、祈りの集いを年間行事に取り入れる
- 従来の行事に祈りの雰囲気を忘れない
- 祈りの場から深い分かち合いができるよう配慮する
- 秘跡（ゆるしの秘跡等）をプログラムに取り入れる
- 信心業（ロザリオ、十字架の道行き等）をプログラムに取り入れる
- 教区の青少年行事が小教区の青少年活動を活発にすることを目的とする
  - 教区の行事で得たことを青少年が小教区で生かせるように助ける
- 聖書を若者が伝える
  - 伝えることによって自分が変わる→自分を見つめる機会になる
- 青少年を福音宣教者に養成する

②若者が主体性を持てる配慮・雰囲気

- 青少年に役割・担当を担ってもらう（任せる）
  - 広報のアイディアを青年に委ねてみる
  - 小教区の委員会に若者を積極的に起用
- 社会的な活動や海外での体験に挑戦させる
- 青少年の活性化のために予算をとる、出し惜しみしない
- 種々のプログラムに誘う・声をかける
- 青年の小教区を越えた活動に寛容になりむしろサポートする
- 青少年の成長を長い期間で見守る、すぐに結果・効果を求めない

③私たち（信徒）の信仰生活

- 信仰を生き生きと生きる姿を若者に見せる
- 今の教会共同体を礼拝共同体から福音宣教共同体へ移行していく
- 教区の方針である協力宣教司牧体制のもと、率先して私たちが協力体制を築き、その姿勢を青少年に見てもらう
- 自分がありのままで、正直で、弱さをさらけ出し、誠実であること
- 神さまや信仰、聖書や祈りの大切さを伝えることを恐れない
- 受け容れる、ゆるす、そばにいる、聴く、声をかける、大切にする、という愛の実行

④新しい企画

- 司教様を囲む会
  - 青年の教会に対する自分の思いや考えを司教様に伝え表明する場とする
  - 司教様が若者に望むことをじっくり聴く機会とする
- 青少年の日の設定
  - この日は教区民一丸となって青少年活性化のために考える日とする
  - 典礼等、青少年が担当する
- 中高生の分野をもっと活発化させる
- 侍者のための集い
- 召し出しのために
  - 四国出身の聖職者の話を聞く

（この部分のレイアウト作成協力＝番町教会青年　河合　香）

若い力

近頃私が感じること

松山教会　高田康信

皆さん、こんにちは。私は松山教会の高田康信といいます。僕が四国に来て一年が経ちました。僕は去年大学の関係で広島から松山に来て、青年会の活動に参加させてもらっています。青年会の活動では様々な方々によくしてもらい、とても感謝しています。ありがとうございます。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、今年六月二十・二十一日に「あっちこっちミサ」というのがあり、高松教区が事務局となり準備を進めています。少しだけ説明させていただくと、あっちこっちミサとは全国各地の教区で、同じ日時、同じ典礼でミサを捧げよう！という趣旨で始まった、青年たちのプロジェクトです。今回のテーマである「出会いは救い」という趣旨のもと、私たちは分かち合いなどを通じて、様々な準備をしてきました。今回は、その中で私が日々感じていることを書かせていただきます。私は神様はその時々に必要な出会いを必要に応じて与えてくださると思います。僕がそのように気づけたのは、準備会を通じていろいろな人と話す機会を得てより神様と密接にかかわるようになったからだと思います。私は大学で松山に来て、様々な出会いがありました。そのひとつひとつが私にとって必要なもので、私はそのことを神様に感謝し、日々を過ごしています。

「わたしは弱いときにこそ強い」

～コリントの信徒への手紙２・12章10節～

最近、この言葉が身に染みて分かる気がします。なぜなら神様がいつもそばにいて下さるからです。これからも私はより多くの若者に神様について知ってもらうために日々頑張りたいと思うし、日本中の若者が「高松教区の青年は元気だ」とおもってもらえるように様々なことに取り組みたいと思います。どうぞ高松教区の青年を温かく見守ってください。よろしくお願いします。

神様に出会うとき

中島町教会（青少年委員）井上貴世

昨年の八月、ＷＹＤＪに参加したことをきっかけに教区内外の行事に参加することが多くなりました。今年の二月には京都教区で行われたネットワークミーティング（以下、ＮＷＭ）に参加し、自分自身をじっくりと見つめ直す機会を持つことができました。

私は今年の四月から障害者福祉サービス事業所に勤務しています。前職を退職する勇気と新しい仕事に挑戦するきっかけとなったのがＮＷＭだったと思います。気づかぬうちに自分で抱え切れないほどの「荷物」を背負い、私は神様に救いを求めていました。その私の抱えていた「荷物」を軽くしてくれたのが同じ時間を共有しおられました。仲間一人ひとりの中に神様を見た気がしました。

ＮＷＭが終わってからが私にとって本当の意味での戦いでしたが、支えてくれる仲間の存在が背中を押してくれました。遠く離れていても神様の下につながっている、そう思うことで私は一人ではないと思うことができたのです。

昨年から、私は青少年委員として活動をしています。そして私たちのそばにはいつも神様がいてくださるのだということに改めて気づくことができました。神様はどんな自分でも受け入れて下さいます。だから教会という場所は居心地がいいのかもしれません。そこに集う仲間一人ひとりの中に神様はおられるのだと思います。ＮＷＭを通して私は苦しいときにこそ神様は出会ってくださるということを感じました。私は仲間を通して神様と出会えました。みんなにとって青年会が、そして教会が居心地のいいあったかい場所、居心地のいい場所には自ずから人が集まってくる、そう思っています。そして将来的に、若い世代がもっと生き生きと活動できるように、自分たちが感じたことを還元しながら、より高松教区を盛り上げていきたいと思っています。

ＮＷＭ＝教会に携わる全国の青年の交流と情報交換の場

学校法人 ロザリオ学園 '09 年度入園児募集中
URL　http://www.rosario.ac.jp/
海の星幼稚園
〒791-8076 松山市会津町 6-1　℡089-951-1717
道後聖母幼稚園
〒790-0848 松山市道後喜多町 7-25　℡089-924-2442
天使幼稚園
〒799-3113 伊予市米湊 756　℡089-982-0503
若葉幼稚園
〒794-0028 今治市北宝来町 1-2-1　℡0898-22-2063
愛光幼稚園
〒792-0011 新居浜市西原町 1-4-6　℡0897-32-3442
西条聖マリア幼稚園
〒793-0030 西条市大町 716-1　℡0897-55-2497
八幡浜聖母幼稚園
〒796-0037 八幡浜市昭和通 1182-7　℡0894-24-4888
愛和聖母幼稚園
〒798-0060 宇和島市丸之内 1-4-18　℡0895-22-1048

聖マルチン病院
薬剤師・看護師（募集）随時募集しています。
聖マルチン病院で専門職を発揮しませんか
下記にご連絡下さい。（総務課）0877-46-5195

切符一枚から心をこめて‥‥
～世界の旅・日本の旅～
名鉄観光サービス株式会社　高松支店
〒760 - 0023 高松市寿町 1 - 4 - 3
電話：087－822－1621

家庭祭壇
祈りと安らぎの空間
家族揃って祈れる場所がご家庭におありでしょうか？
8.5 万円～各種取り揃えておりますので、お気軽にご相談ください。カタログを無料にて郵送致します
℡ 0972-63-4187
担当：ローザ平林美穂子
〒875-0041 大分県臼杵市畳屋町三組　山本鳳凰堂

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう。
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　阿南聖母幼稚園

パウロに導かれた男

道後教会　田井貞良

私が若いころの話である。私の親友の彼は一途な信仰を持った人であった。この話は彼から聞いたものである。彼の所属していた教会はほどなく百周年を迎えようとしていた。彼も百周年の大会の実行委員会に加わっていて、毎週ああでもない、こうでもないと会議の連続であった。会議が難航しているのは、ある長老が何かと難癖を付けているためであった。ある日の会合で、純な彼はついにぶっ切れた。「僕は前向きに考えているのにそんな論理で反対されるのなら僕はもう出来ん。僕は降りる！」と言って立ち上がってガガーと荒々しく扉を閉めたかと思うと自分の自転車に飛び乗って「ギギゴゴギー」（ぼろ自転車だった）と帰途についたのであった。

ン百メートル程走った時、何とイエス・キリストが目の前を通り過ぎるではないか！彼は思わず『クォ・ヴァーディス・ドミネ』と叫んだ。キリストは言った。『お前がやめた会議に参加する為だよ』

自分は勝手に委員を辞めることはできるが神父さんも事務所の○○さんもいやでも抜け出すことは出来ない。僕は何と勝手なことをしたのだ！

彼はキビスを返して教会へスピードで帰って行ったのである。「キキココキー」（速い）扉をガーと開けると「申し訳ありません。僕が悪かったです。委員を続けさせていただきます。」と言った。皆はほっとした顔を並べてうなずいたが、くだんの長老が「私も悪かった」と言ったとか。もちろん百周年は成功裏に幕を閉じたのであった。

聖パウロ大聖堂の思い出

桜町教会　伊藤月子

神様の御恵みにより、二〇〇一年二月長男洋と大聖年の余韻の残るヨーロッパ巡礼の旅をしました。その旅の思い出や感動を、パウロ年に当たって、皆様と分かち合いたいとの想いが、パウロの回心の祝日のミサに与っているうちに生まれてきました。

巡礼はバチカンから始まり、聖パウロ教会、カタコンベ等を巡りました。聖パウロ教会は「民の使徒」と呼ばれた聖パウロの墓の上に建立され、典型的なバジリカ様式で内部は百五十本の巨大な円柱がそびえ、窓からはアラバスターの淡く幻想的な光りが差し込んでいました。教会の奥中央の聖パウロ像が堂々とした姿で迎え入れて下さいました。

その御像の前で白柳枢機卿様がミサを立てられましたが、その時の感動的なお話しを是非お伝えしたいと思います。

「この教会は全世界そしてローマにとっても大切な教会で、ここから第二バチカン公会議が発せられ教会の刷新が為されました。ペトロとパウロは共にローマの守護聖人です。ペトロは漁師、パウロはキリスト者の迫害者でしたが、神の恵みで聖人になったのです。皆さん、各々の場所で『愛の人』になりましょう。これからの新しい世紀をこの教会から力強く歩み出しましょう。」と語られました。いまでも折に触れ『愛の人』になるようにとのフレーズが私を問いかけ励ましています。

パウロ年は、難行苦行の旅に明け暮れ、ひたすら異邦人宣教に命を賭けた聖パウロの偉業が再評価される時だと思います。残された十三の書簡は現代に生きる私たちの心に届く迫力と情熱に満ちて、今なお私達を魅了し続けています。

聖職への決意
神学生だより ⑥

日本カトリック神学院
神学科一年　松田栄作

去る三月一日、カテドラルで助祭・司祭候補者認定式を頂きました。通常、候補者認定式は、哲学科から神学科へと進むときに行われています。今後、朗読奉仕者→祭壇奉仕者→助祭叙階→司祭叙階と進んで行くことになっています。

さて、認定式を挟んで春休みの間司教館に滞在しましたが、今高松教区が大きな動きをしていることを改めて認識しました。中でも、国際宣教神学院廃校を巡る動きと協力宣教司牧の体制整備の動きには目を見張るものがあります。神様のみこころを見極めて協力して行かなければなりません。教区立神学院の廃校を巡る動きからは、司教教書で述べられたとおり、青少年司牧と召命問題への取り組みという課題が浮かび上がってきました。司祭を外から引っ張ってくるのではなく、自分たちで育てていくことが求められています。溝部司教様が度々言われて来たことです。認定式の挨拶で紹介しましたが、東京カトリック神学院の閉校式に当たる感謝の祭儀で、神学校を設立したパリミッション会のシェガレ神父様が次のような挨拶を述べられました。『日本の教会が自ら邦人司祭を生み出すようになったときに初めて、日本の教会は自立したと言えるのだ。これをスローガンに教区司祭養成のための神学校を一九二九年に設立した』と。経済的な自立とか信徒数の増加とかいうことよりも、自ら司祭を誕生させる教会こそが自立したと言えるのだという点を強調されていたのです。そして、教区立神学校廃校の条件として、ローマの要求した課題が、まさにこのことだったのです。

認定式に臨む松田神学生

私は、認定式で決意表明を行ったとおり、神様のみこころを尋ね求め、それを行うことに生涯を捧げる決意をしています。どうか、これからも祈り、支え、導いて下さるようお願い致します。

委員会報告

女性の視点から教会を考える委員会について

実はこの委員会は、二〇〇七年までは、「カトリック女性団体連盟」という全国的な組織に属していました。二〇〇七年からはこれを休会し「上からの組織づくりよりも横のつながりを深めながら、緩やかに、徐々に形作っていく」という再編成の道を歩むために、「女性の集い」として研修会を行ないましたがこの度、「女性の視点から教会を考える委員会」として教区の宣教司牧評議会の中の諸委員会の一つとして位置付けられることになりました。この委員会の運営及び活動、詳細については次回四月十八日の担当者会で協議することになっています。

二〇〇九年三月二十五日

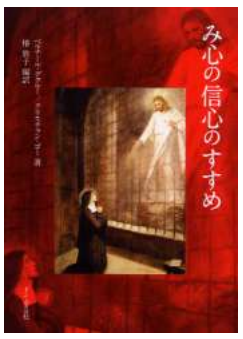
担当　Sr高松　常子

新刊書籍紹介

■「典礼と秘跡のハンドブック」

典礼奉仕者が知っておきたい基礎知識を満載。典礼上の議論の多い点を明確にし、ミサの意味を明らかにする。典礼に携わる人に必携の一冊。著者　具正謨（くう・ちょんも）イエズス会司祭、神学博士　教文社刊　Ａ５判・２４８頁・１６８０円

■「み心の信心のすすめ」



イエスが示された「み心の信心」による、ゆるぎない信仰生活へのすすめを紹介する。ベルナール・デクルー／クリスチャン・ゴー　著　椿歌子　編訳　Ａ６判並製・７５頁・５２５円

教区スケジュール

5月11日（月）～12日（火）
　西日本地区司祭交流会 in 大分
13日（水）司祭評議会
17日（日）ルルド祭（三本松）
22日（金）教区宣教司牧評議会・役員会
24日（日）主の昇天
30日（土）パウロ年講座（鈴木真一師：パウロ会士）
　「パウロの宣教ーそれは福音を生きる」
31日（日）聖霊降臨
6月2日（火）司祭評議会
7日（日）三位一体の主日
9日（火）～11日（木）
　大阪教会管区会議 in 名古屋
13日（土）～14日（日）
　青年の集い
14日（日）キリストの聖体
17日（水）朝祷会
19日（金）イエスのみこころ
24日（水）洗礼者聖ヨハネの誕生
27日（土）パウロ年講座（溝部司教）
　「異邦人への宣教」
28日（日）道後教会献堂50周年記念
29日（月）聖ペトロと聖パウロ使徒
　（聖ペトロ使徒座献金）

主な司教日程

5月1日（金）～2日（土）
　九州仏教教学研究所講演（別府）
10日（日）堅信式（宮崎教会）
12日（火）司祭評議会
17日（日）ルルド祭（三本松）
18日（月）カトリック神学院講義（東京）
19日（火）東北地区カトリック学校懇談会（仙台）
22日（金）宣教司牧評議会
24日（日）～29日（金）
　ザベリオ宣教会黙想会指導（福岡）
31日（日）堅信式（桜町）
（＊5月中　司祭との個人面談）
6月1日（月）カトリック神学院講義
2日（火）司祭評議会
4日（木）神学院常任司教委員会（東京）
9日（火）～11日（木）
　大阪管区司祭研修会（名古屋）
13日（土）青年の集い
14日（日）カトリック医師会
15日（月）～19日（金）
　カトリック神学院講義、司教総会
21日（日）あっちこっちミサ（桜町）
22日（月）列聖委員会（福岡）
27日（土）パウロ年講座（桜町）「異邦人への宣教」
28日（日）道後教会献堂50周年記念ミサ
29日（月）カトリック神学院講義

高松教区人事（４月１日付）

濱口秀昭師（教区会計）
　東京サレジオ学園
佐藤直樹師（教区青少年委員会担当）
　東京碑文谷教会
サンティアゴ・サイズ師（道後教会担当）
　教区会計・司教顧問
　今治教会主任
稲毛利之師（ドミニコ会士）
　香川県東讃ブロック協力司祭
　小豆島教会担当
ユ・チョンピル・ペドロ師
　今治教会助任
サトルニノ・ゴンザレス師
　松山地区協力司祭、道後教会担当
Ｉ・ザヒャ・ロファンディ師
　松山地区協力司祭、郡中教会担当
土屋和彦師
　教区青少年委員会担当
三宅克彦氏
　教区典礼委員会委員長